

第3回千歳市景観計画検討会議結果
(意見、質疑とりまとめ)

会議スケジュール	
会議開催日	令和2年12月15日
意見書提出期限	令和2年12月28日

意見、質疑とりまとめ結果	
意見書提出者	7名
意見、質疑件数	20件

第2章 千歳市の景観特性と課題
3. 千歳市の景観づくりの課題

千歳市景観計画(骨子)	質疑・意見等
(1) 千歳市のまちづくりの戦略として求められる景観づくり	
＜千歳市の都市イメージ・都市ブランドづくりに寄与する景観づくり＞	
千歳市のさらなる発展のためには豊かな自然環境や利便性の高い立地環境を生かした企業誘致や移住促進を進めていくことが重要です。 企業誘致や移住促進は、そのまちのイメージが大切であり、景観が都市のイメージを構成する重要な要素となるため、千歳市の都市イメージ・都市ブランドづくりに寄与する景観づくりが求められます。	「都市ブランド」について、具体的にどのようなことを指すのか、もう少し補足の記載があると良いのではないか。
＜観光に寄与する景観づくり＞	
新千歳空港を擁する千歳市では、北海道の空の玄関口としての役割があり、長期的にはインバウンドが増加傾向にあるほか、新千歳空港の民営化などの要因により、今後も千歳市の観光の機運が高まることが予想されます。 千歳市には、支笏洞爺国立公園に代表される自然景観、サケの遡上が見られる千歳川やインディアン水車、パレットの丘に代表される東部の北海道らしい田園景観などの景観資源があることから、これらを活かし、北海道の空の玄関口にふさわしい、観光に寄与する景観づくりを進めることが求められます。	文章全体の文脈がわかりづらい 所どころ言葉が抜けている 観光については景観づくりが重要であることから、再考すべき
＜中心市街地の賑わいづくりにつながる景観づくり＞	
千歳市においては、JR千歳駅から駅前通を中心に商店街や商業施設などが集積し、グリーンベルトや千歳川などの水とみどり調和した中心市街地がつくられており、市民が生活、活動、交流する拠点として、賑わいの中心となっています。 観光の活性化や交流人口の増加、人々のふれあいのある地域コミュニティの活性化のためには中心市街地の賑わいづくりにつながる景観づくりを進めることが求められます。	※意見なし
＜市民の誇りと愛着の醸成につながる景観づくり＞	
定住人口を増やすためには、市民のまちに対する愛着と誇りを醸成することが大切です。 そのためには、子どもの頃から景観づくりに参加してもらい、千歳市の景観に愛着と誇りを持ってもらうようにすることが大切です。 千歳市には、支笏湖に代表される自然景観やパレットの丘に代表される東部の北海道らしい田園景観、世界遺産登録を目指すキウス周堤墓群など市民の誇りとなる景観資源があり、こうした資源を市民、事業者、市の協働で保全することで、市民の愛着と誇りの醸成につながる景観づくりを進めることが求められます。	※意見なし
(2) 千歳市の景観づくりの課題	
＜豊かな自然を身近に感じられる景観づくり＞	
市街地を流れる河川は、親水に配慮した整備が行われていますが、一部の区間では、潤いが感じられない水辺空間もあります。また、千歳市には、公園や広場の拠点として、青葉公園、青空公園、美々公園など良好な環境を持つ、大型の都市公園が整備されており、市民の日常的なレクリエーションや運動の場として良好な環境をつくり出しており、これらの施設をより身近に感じることができるよう「千歳市公共サインガイドライン」に基づき、景観に配慮した適切な公共サインの配置を行うなど、利用しやすい拠点づくりを進めていますが、一部で整備が行き届いていない箇所もあります。 水辺や公園緑地など豊かな自然景観を保全するためには、市民が自然景観を身近な存在として再認識し、街路樹や住宅地の庭、商業地の店先、工業地の敷地など身近な景観を保全・活用することが必要です 千歳川の水辺空間を生かした景観づくり、市民ニーズに対応した利用しやすい拠点づくりを継続して進め、また、市民、事業者自らが自然と調和した生活環境の創出に取り組み、市民、事業者、市の協働で豊かな自然を身近に感じられる景観づくりを進めることが求められます。	「また、千歳市には……一部で整備が行き届いていない箇所もあります。」について、文脈が不鮮明でわかりづらい。 「一部の区間では潤いが感じられない水辺空間もあります。」について、「水辺空間であるのに潤いが無い」というのは矛盾しているので、問題点を明確に記載するか、削除したほうが良い。

第2章 千歳市の景観特性と課題
3. 千歳市の景観づくりの課題

千歳市景観計画(骨子)	質疑・意見等
＜まちの顔や中心市街地の賑わいを感じられる景観づくり＞	
施設の拠点としては、新千歳空港・JR千歳駅・道の駅サーモンパーク千歳・千歳科学技術大学などが代表としてあげられます。 その中でもJR千歳駅周辺は交通拠点として多くの利用客が訪れ、「まちの顔」ともいべき性格を持っており、景観に配慮した建築物が建築されるなど、良好な景観づくりを進めてきていますが、一部で土地利用が進んでいない箇所もあります。 また、中心市街地地区の住宅地や商業地では、老朽化した住宅や店舗が多く、狭い歩行空間とあわせ、ゆとりを感じられない景観となっているほか、商店街では空き店舗の増加が進み、昼間の賑わいが低下し、中心性が薄れています。	「千歳科学技術大学」を「公立千歳科学技術大学」に修正していただきたい。
＜北海道の空の玄関口としてのおもてなしの景観づくり＞	
来訪者にとって北海道らしさを感じられる雄大な山並みや広がりのある畑田園景観、豊かなみどりが際立つ景観づくりが求められます。 観光客の利用が多い新千歳空港周辺や道の駅サーモンパーク千歳では、樽前山の眺望やインディアン水車周辺の親水性に富んだ水辺など、良好な都市景観がづくり出されています。また、千歳科学技術大学もまた、北海道ならではの広大な敷地に恵まれ、豊かな自然環境につつまれた良好な景観をつくり出しています。 一方で、新千歳空港周辺の沿道の一部において、大型の屋外広告物が目につき、良好な自然景観の眺望を阻害している箇所もあることから、空港周辺の周辺環境と調和した屋外広告物のあり方が今後の景観づくりの課題となっています。	「千歳科学技術大学」を「公立千歳科学技術大学」に修正していただきたい。
＜千歳市の観光ルートを踏まえた沿道の景観づくり＞	
千歳市の重要な観光資源である東部の田園地域や世界遺産の登録を目指すキウス周堤墓群、西部の国立公園支笏湖をつなぐ沿道や周辺市町への広域観光につながる沿道の景観づくりが求められます。 札幌市から千歳市街地を通り、新千歳空港につながる幹線道路である国道36号、JR千歳駅や千歳市街地から道の駅サーモンパーク千歳や千歳川沿いを通り、キウス周堤墓群周辺を通過する国道337号、また千歳市街地から豊かな自然景観を通りながら支笏湖につながる道道支笏湖公園線は特に重要な道路と言えます。 特に道の駅サーモンパーク千歳、JR千歳駅周辺、青葉公園などの各拠点間を結ぶ道路を「拠点回遊軸」と位置付けており、安全で快適な歩行者・自転車空間を創出する回遊ネットワークの形成が求められています。 多様な観光資源をつなげる千歳市の観光ルートを踏まえた沿道の景観づくりを進めることが求められます。	※意見なし
[9] キウス周堤墓群周辺の保全・活用につながる景観づくり	
キウス周堤墓群は縄文時代の社会組織を示すものとして重要な周堤墓が他に例のない規模で群衆している重要な史跡です。 縄文当時の地形や自然環境を保全し、当時の人々の暮らしを感じられ、活用につながる景観づくりが求められます。 キウス周堤墓群の世界遺産登録へ向け、史跡とその周りの緩衝地帯、また周辺の田園景観が一体となった景観づくりが求められます。	「キウス周堤墓群・・・重要な史跡です。」について、句読点を入れるべき。 「縄文当時の地形や・・・活用につながる景観づくり」について、「活用につながる」の意味が不明。→「・・・当時の暮らしを感じとれる景観保全が求められます。」に修正してはどうか。 「・・・また、周辺の田園景観が一体となった景観づくりが求められます。」について、「また、周辺の田園景観と一体となる景観形成が求められます。」に修正してはどうか。→世界遺産登録に向けてのであれば、「景観づくり」より「景観形成」あるいは「景観保全」の方が良いと考える。

第3章 景観づくりの基本理念、基本方針

1. 基本理念

千歳市景観計画(骨子)	質疑・意見等
■説明	
千歳市は、北海道の空の玄関口である新千歳空港があり、交通の要衝として高い都市機能をもった国際交流都市ある一方、支笏湖に代表される雄大な自然景観や良好な北海道らしい広がりのある田園景観を有しています。 また、ユネスコの世界遺産登録を目指しているキウス周堤墓群やウサクマイ遺跡など縄文からアイヌ文化、近代に至るまでの歴史を伝える歴史文化的景観などがあります。 郊外の住宅地や工業地では、都市計画に基づいて整然とした土地利用がなされ、緑あふれる美しいまちなみを形成しています。 これらの自然景観や田園景観、歴史文化的景観に囲まれ整然とした都市が形成されている千歳市ですが、まちの顔である中心市街地は空き店舗や駐車場が増え、賑わいが少なくなっていると言った課題もあります。 そこで、千歳市の貴重な財産である良好な自然景観、田園景観の保全に努めるとともに、世界遺産候補でもあるキウス周堤墓群などの歴史文化的景観の保全にも努めます。 市民の暮らしを豊かにする都市景観を、市民、事業者、市が協力しあいながら共通の意識のもとに、長い年月をかけて育み、将来の千歳市民へ受け継いでいく必要があります。 このことから、私たちは千歳市が持っている特性を生かし、市民、事業者、市がみんなの力で、より美しく快適なまちなみをつくりあげていくため、以下を千歳市の景観づくりの基本理念とします。 この理念は市民、事業者、市が協働で景観づくりを行っていくためのものとしします。	※意見なし
■基本理念	
■ 千歳市の持つ特性、魅力を生かし千歳らしさを創出する ■ 大地の持つ美しい自然、風土、歴史を活かし守る ■ 千歳市の美しい景観をまもり、育て、つくり、引き継ぐ	※意見なし

第3章 景観づくりの基本理念、基本方針
2. 基本方針

千歳市景観計画(骨子)	質疑・意見等
(1) 世界とつながる北海道の空の玄関口・国際都市にふさわしい景観づくり	
国際空港である新千歳空港を持つ千歳市は、来訪者に北海道のイメージを印象づける大切なまちであり、空港の民営化により、今後もその役割は高まることが想定されることから、自然と都市が調和しながら、そこにおもてなしが感じられるような、世界とつながる北海道の空の玄関口・国際都市にふさわしい景観づくりを進めます。	※意見なし
(2) 豊かな自然環境・広がりのある田園景観・歴史を大切にしたい景観づくり	
千歳市は、支笏湖や樽前山などを含む国立公園を有するほか、サケの遡上を見ることができる千歳川など、身近に感じることができる豊かな自然景観があります。また、市域の北東部には、広がりを感じることができる北海道らしい田園景観があり、さらに、世界遺産登録を目指すキウス周堤墓群があります。 このように千歳市には、世界に誇れる自然景観や田園景観、歴史文化的景観があることから、豊かな自然景観、広がりのある田園景観、歴史文化的景観を大切にしたい景観づくりを進めます。	「広がりを感じることができる北海道らしい田園景観があり…」について「農業の営みが形成する広がりのある北海道らしい田園景観があり…」に修正してはどうか。 「歴史文化的景観」について、「歴史・文化を形成する景観」に修正してはどうか。
(3) 質の高い暮らしを感じる都市の景観づくり	
千歳市は、計画的につくられたみどりに囲まれている住宅地や工業団地があります。また市街地には、支笏湖から流れる千歳川やその支流のママチ川が流れ、水とみどりと調和した市街地をつくり出しています。 移住や定住を進めるためにも質の高い住宅環境などが求められることから、水とみどりに囲まれた質の高い暮らしを感じる都市の景観づくりを進めます。	「質の高い暮らしを感じる都市の景観づくり」について、「質の高い暮らしが営まれる都市の景観づくり」に修正してはどうか。→より実践的であると考え。
(4) 賑わいと交流を生む景観づくり	
千歳市の顔である中心市街地は、近年多くの外国人観光客が滞在するようになっていますが、一部で空き店舗や駐車場などにより賑わいを感じにくくなっている箇所があります。 そこで、人が歩きやすいまち、たたずみやすい空間づくりなど「人を中心としたまち」への転換を促し、賑わいと交流を生む景観づくりを進めます。	「人が歩きやすいまち、たたずみやすい空間づくりなど「人を中心としたまち」への転換…」について、「…人が歩いて楽しいまち、ゆっくり休憩できる空間づくりなど、「人間中心の活動しやすいまち」への転換…」に修正してはどうか。→市民に通じやすいと考える。
(5) 愛着と誇りを育む協働による景観づくり	
千歳市街地からの恵庭岳や樽前山の眺め、市街地を流れ毎年鮭が遡上する千歳川、パレットの丘に代表される広がりを感じる北海道らしい田園景観などは、千歳市の観光資源であると同時に市民のふるさとの風景でもあります。 こうしたふるさとの風景を保全する景観づくりを市民や事業者、市の協働で進めることにより、ふるさとの風景を大切にしたい市民意識の醸成し、愛着と誇り育む協働による景観づくりを進めます。	「ふるさとの風景を大切にしたい市民意識を醸成し、愛着と誇りを育む協働による景観づくりを進めます。」について、「…ふるさとの風景を大切にしたい市民意識が醸成され、地元への愛着と誇りが育まれて、市民と行政と事業者の協働による景観づくりが可能となります。」に修正してはどうか。

第3章 景観づくりの基本理念、基本方針

3. エリアごとの景観づくりの考え方

千歳市景観計画(骨子)		質疑・意見等
(1) 自然景観エリア		
■ 景観特性		
市域の東部、支笏湖をはじめとする国有林は、支笏湖国立公園の一部をなしており、様々な野生生物が生息し、千歳市の貴重な自然景観をつくり出しており、観光資源となっています。 この自然景観は、千歳市や青葉公園とつながっており、市街地のみどり豊かな景観づくりに寄与しています。 また、千歳市内から支笏湖へ向かう道道支笏湖公園線は、沿道の樹林により緑の回廊が形成されており、印象的な景観となっています。		※意見なし
■ 景観づくりの方針		
◎ 今ある自然景観を維持・保全に努めます。		※意見なし
(2) 田園景観エリア		
■ 景観特性		
千歳市の東部の田園地域では、丘陵地帯に小麦やてん菜、大豆などの生産が行われ、広がりのある田園景観がつけられており、防風保安林なども含め、飛行機から見える風景は北海道らしさを感じることができる田園景観となっています。 また、幌加地区にある美しい波状丘陵地帯は、バレットの丘と呼ばれており、秋には緑肥用として植えられたヒマワリが咲き、空と大地がおりなすコントラストがより一層美しく、北海道らしい雄大さを感じることができる景観となっています。		※意見なし
■ 景観づくりの方針		
◎ 農業振興策を推進することにより、農地の保全と適切な維持管理を促進し、美しい田園風景の保全に努めます。 ◎ 周囲から突出した高さや規模の大きな建築物、工作物などの景観的配慮を促し、背景となる山並みへ眺望と広がりのある田園景観の保全に努めます。 ◎ 目立ちやすい土木構造物などを生じる土地の改変や屋外における資材などの堆積・貯蔵を適切に誘導し、周辺の良好な田園風景の保全に努めます。		※意見なし
(3) 新千歳空港周辺景観エリア		
■ 景観特性		
新千歳空港は、国際便も数多く就航する北海道の空の玄関口であり、空港周辺を含むエリアの景観は千歳市のみならず北海道を訪れる国内外の多くの人々の目にふれ、北海道を大きく印象付ける大切なエリアです。		※意見なし
■ 景観づくりの方針		
◎ 周辺の自然景観や田園風景に調和しつつ、北海道のイメージを高める魅力的な景観づくりに努めます。 ◎ 空港周辺の産業系の土地利用にあたっては、周辺の自然や田園風景との調和に配慮した形態意匠や色彩、規模などによる建築物・工作物の立地を誘導するとともに、緑化を促進し、緑に囲まれた北海道の空の玄関口エリアにふさわしい景観づくりに努めます。		※意見なし

第3章 景観づくりの基本理念、基本方針
3. エリアごとの景観づくりの考え方

千歳市景観計画(骨子)		質疑・意見等
(4) 市街地景観エリア		
① 中心市街地地区		
■ 景観特性		
千歳市には「仲の橋通り商店街」「新橋通商店街」「ニューサンロード商店街」「新川通商店街」「北新商店街」「インディアン水車通り商店街」「千歳駅前通り商店街」の7つの商店街振興組合があり、千歳市都市計画マスタープランでは、中心市街地地区は、JR千歳駅を中心とし概ね半径1キロメートルの範囲としています。 中心市街地地区は、主に商業地で構成され、商業施設や業務施設などの生活利便施設が集積し、また、グリーンベルトや千歳川などの自然環境も兼ね備えた地区となっており、水とみどり調和した中心市街地の景観がつくられています。		※意見なし
■ 景観づくりの方針		
◎ グリーンベルトと千歳川などの潤いを活かしつつ、商業地としてまちの中心を感じられる賑わいと中心性の向上に努めます。 ◎ 建物1階の賑わい創出やベンチ、広場などの滞留空間の誘導などにより、歩いて楽しいまちなかの景観づくりに努めます。		商業地としての景観についてイメージがわからない。 具体的にどのように進めていくのか、イメージがわくような記載にすべき。
② 住宅地地区		
■ 景観特性		
千歳市の住宅地は、既存市街地に古くから存在する住宅地と、市街地の外縁部に計画的に整備された比較的新しい住宅地に分けられます。 市街地外縁部の計画的に整備された住宅地においては、広い敷地、広幅員の街路、宅地内の緑化などによって、良好な住環境をつくり出しています。 また、泉沢地区の特別分譲地は、臨森林型の住宅地としてみどり豊かで良好な住環境をつくり出しています。		※意見なし
■ 景観づくりの方針		
◎ 住宅の庭先や窓辺にできる限り緑化を行い、うるおいのある住宅地景観の形成に努めます。また、敷地内では四季を感じる植栽を行うなど、季節感の演出に努めます。 ◎ 住宅の規模・形態は、周辺の住宅のスケールと不調和とならないように十分に配慮し、まとまりが感じられる住宅地の景観づくりに努めます。		※意見なし
③ 工業団地地区		
■ 景観特性		
千歳市の工業地は、長都駅周辺の生産系工業地、泉沢および美々地域の多機能複合型工業地、弥生・寿周辺の物流・住居調和型工業地に分かれています。 千歳市の工業団地については、工場立地法で義務付けられている緑地面積が団地周辺の緑地で十分確保されている状態にあり、緑に囲まれた工業団地をつくり出しています。 特に、長都駅周辺と泉沢地域の工業地は、広い敷地の周囲に緩衝緑地帯を整備し、工場内の緑地とあわせて、良好な景観をつくり出しています。		※意見なし
■ 景観づくりの方針		
◎ 緑豊かな良好な景観の維持に努めます。 ◎ 敷地内(特に敷地境界)の緑化に努めます。 ◎ 建物、工作物等の外壁又は柱の面の位置も敷地境界から一定程度距離を確保するなど、良好な景観づくりに努めます。		※意見なし

第3章 景観づくりの基本理念、基本方針
3. エリアごとの景観づくりの考え方

千歳市景観計画(骨子)		質疑・意見等
(5) 史跡景観エリア (※世界遺産登録関連項目については、意見聴取対象外)		
■ 景観特性		
史跡キウス周堤墓群は、周堤の外径が最大83m、くぼみ底面から周堤天端までに高さが最大で4.7mにも及ぶ大型のものを含む周堤墓が群集し、中には互いに周堤が接するものがあり、全体として広域な墓地の集合体を形成しており、これまでの調査により、立石を伴うものや石棒を副葬したもの、ベンガラを散布したものなど、副葬の多様なあり方を示す土坑墓が良好に遺存していることが確認されています。 周堤墓群は、のちに火山灰や腐植土によって覆われますが、昭和初期に保護がなされ、構築時の外観を現地表でもそのまま確認することができ、周堤と中央部のくぼみ、及び相互の配置が作り出す地勢・地貌は、現在に至る史跡(遺跡)の形成過程を示すとともに、縄文時代の墓地群の有り様を反映させた史跡(遺跡)景観をつくり出しています。	専門用語については、注釈を入れるべき。	
ウサクマイ遺跡群は、約7000年前の縄文時代早期に内別川周辺に人々が暮らし始めたことで形成された遺跡群で、縄文時代早期からアイヌ文化期に至る22か所の遺跡と多数の近世の炭窯が発見されており、墓壇の中から出土した蕨手刀・刀子・擦文土器などの副葬品は、古代東北地方との文物交流を物語る具体的資料としてきわめて高く評価されています。 また、地表に明瞭なくぼみを見せて密集する79の竪穴住居跡は、大規模な集落跡として重要とされ、落葉や落枝からなる泥炭層からは、動・植物遺体のほか縄文前期の土器が発見されているなど、貴重な遺跡とされています。	※意見なし	
■ 景観づくりの方針		
◎ 史跡キウス周堤墓群縄文の景観は、縄文の雰囲気を感じられるよう、史跡景観の保全を図るとともに、緩衝地帯並びに周辺地域の地理的・自然的環境の保全に努めます。 ◎ 今後、史跡を整備することにより、将来的に多くの来訪者が見込まれることから、周辺景観や環境が悪化しないよう配慮します。 ◎ 市民との協働により、景観重点区域における景観の保全に努めます。	※意見なし	
◎ ウサクマイ遺跡群及びその周辺は、現状の植生環境や景観の保全に努めます。 ◎ 史跡の価値を共有し、地域のかけがえのないものであるといった意識を持ち、地域住民の生活と史跡が共存できるよう、市民と市が連携して景観の保全に努めます。	※意見なし	
(6) 沿道景観軸		
■ 景観特性		
千歳市は、古くからの交通の要衝であり、新千歳空港を核として道内の主要都市を結ぶ広域的な道路体系、交通体系が整備されています。 千歳空港周辺や国道36号、国道337号、道道千歳インター線などでは、北海道の空の玄関口として、来訪する方々へ「おもてなしの心」をあらわすために、2003年からシーニックバイウェイ活動の一つとして花植え活動が始まり、現在も彩ある沿道景観がつけられています。	※意見なし	
■ 景観づくりの方針		
◎ 北海道の空の玄関口である国際都市ちとせを意識した質の高い沿道景観づくりに努めます。 ◎ みどり豊かで彩のある沿道景観となるように街路樹など樹木の適切な維持管理や、花植え活動に努めます。 ◎ 新千歳空港周辺の幹線道路の屋外広告物等は、配置、規模、色彩等において、周辺景観との調和に努めます。	※意見なし	
(7) 水とみどりの景観軸		
■ 景観特性		
千歳市は、国立公園である支笏湖を水源とする清流千歳川をはじめとして、大小の河川がまちなかに水辺空間を形成し、河川沿いの緑地がみどりの景観軸をつくりだしています。	※意見なし	
■ 景観づくりの方針		
◎ まちなみとの関わりを意識し、市民の身近な憩いの場として豊かで潤いのある景観づくりに努めます。 ◎ 市街地の水辺空間では、散策路などを設け誰もが憩い、くつろぐことができる空間づくりに努め、加えて周辺の公園・緑地と連続した一体的な活用を進めると同時に柵や河川構造物などの景観への配慮に努めます。	「柵や河川構造物」について、「河川構造物など」に修正してはどうか。	

第5章 景観づくりの推進方策

1. 千歳市の景観づくりを支える推進方策

千歳市景観計画(骨子)	質疑・意見等
(1) 市民参加による景観づくりを支える推進方策	
■ 景観講座の開催	
市民協働事業として、市民団体と協働で、景観に関する市民対象講座を行い、市民の景観づくりに対する意識の向上や人材育成を図ります。	※意見なし
■ ジュニア景観市講座の開催	
市民協働事業として、市民団体と協働で、子供たちを対象とした景観づくりの講座を開催し、景観の大切さを感じ取ってもらい、公共心を育成します。なお、受講者にはジュニア景観士として認定を行います。	※意見なし
(2) 景観づくりに関する啓蒙、啓発、各種情報提供の充実	
■ 千歳市景観アドバイザーの派遣	
景観士講座、ジュニア景観士講座や商店街、各種団体、地域コミュニティなどへ景観の専門家を派遣し、地域の景観づくりに対するアドバイスなどを行います。	※意見なし
■ 景観出前講座の開催	
市職員による景観づくりに関する出張講座を開催します。	※意見なし
■ ホームページによる情報提供	
景観づくりの啓蒙、啓発、景観計画の周知、推進のため、景観氏講座、ジュニア景観士講座、景観出前講座などの各講座情報を掲載するとともに、景観計画に関する内容を掲載します。	※意見なし
(3) 公共事業、民間事業との連携体制の構築	
■ 千歳市景観市民会議の設置	
市民、事業者、市の連携を強化するため、景観づくりに関する情報交換や、景観づくりの取り組みについて話し合う場をつくります。	※意見なし
■ 千歳市景観推進会議の設置	
千歳市景観計画を推進するための母体となる庁内組織として設置し、公共事業における景観づくりの取り組みに関する情報交換や、必要におうじて、良好な景観づくりに関する施策を検討します。	※意見なし
■ 屋外広告物の誘導	
北海道屋外広告物条例や新千歳空港アクセス沿道景観形成ガイドラインを連携し、景観づくりを行う上で重要な地区において、屋外広告物の設置に対し、適正に誘導します。	※意見なし

その他 (自由記載)

その他、ご意見等ありましたら、記載をお願いします。

質疑・意見等
「千歳市景観計画」として一度決定すれば、長期に渡って効力を発揮する。また、北海道内の他の地域との比較検討なども行われる機会も生じるので、文章と語彙などに関する推敲を行うことが望まれます。(人々に受け入れてもらうため、説得力のある文章が必要。)
内容について特に問題はなく、全体的にわかりやすくまとめられている。
文中で「まちなみ」や「みどり」などのような平仮名表現としているものについて、表現方法としては良いと思うが、理由を教えてください。
千歳市は、自然豊かで素晴らしい景観だと思う。オオワシやオジロワシの飛ぶ冬の千歳川や春の桜、田園地帯のマガンの群れなど。 新千歳空港周辺、特に中央分離帯に特定外来種のオオハングソウが茂っているが、北海道の空の玄関から最初に目につくところであるので、草刈りをすべき。 キウス周堤墓群、国道337号の擁壁は今のままでも問題ないのではないか。周堤墓の深さを説明するときにとてもわかりやすいと思う。また、擁壁をツル性植物で覆うとその根が壁を崩すことも考えられる。柵についても、自然に溶け込ませると転落する危険性があるので、今のままで良いと思う。 新千歳空港、南千歳、千歳と千歳のつく駅が3つあり道外の人にはわかりづらいので、駅前再整備に併せ、千歳らしさを全面に押し出せたら良いと思う。 例えば・・・給水スポット、航空機の廃材から作ったベンチなど
千歳市景観計画に「無電柱化の推進」について記述してはどうか。 国交省で「無電柱化の推進に関する法律」に基づき「無電柱化推進計画」を定め、推進を図っており、無電柱化を重点的に進める対象道路として「景観形成・観光振興」という項目があり、「世界遺産・日本遺産等の周辺、景観法、景観条例等に位置付けられた地域(抜粋)」において良好な景観の形成や観光振興のために重要な道路の無電柱化を推進するとされている。 ※現在、千歳市においては、「千歳駅前周辺」「国道36号 本町・錦町周辺」において無電柱化を行っている。
わかりやすい言葉と内容でまとめられている。「景観エリアごとの景観づくりの考え方」について、図や写真がありとてもわかりやすいと感じた。
リモートを導入すべき。双方向の議論が必要。 キウス周堤墓群について、市民により親しまれるものとしていくため、具体的な方策を実行していく必要があると思う。 例えばVRの制作など、何か具体的なことをやるのが大切だと思う。 ※「当時の生活様式が明確ではない」というような考え方もあるが、NHK放送の中で使用されている手法等を用いるなど、やり方はあると思う。 本検討会議終了後に緩やかな協議会的な組織をつくり、景観に関する意識の普及啓発をゆっくり継続してはどうか。 ※景観については人それぞれ考えが違うので、千歳に住んでいる人にとって心地よい景観を探すのはとても時間がかかるため。また、一方的に「こう決めましたから、こうしましょう」と宣言するやり方も上手いかなと思う。 ※まずは短いスパンの目標を決め、その目標に向かって進める中で千歳らしい景観を育てていくという道筋を大切にしていきたいと思う。